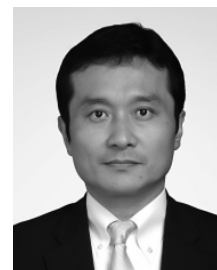


衛生士が知っておくべき、 “インプラント手術に必要な解剖学的知識”

阿部 伸一

東京歯科大学 解剖学講座 教授



超高齢社会になり、合併症を伴った患者、また著しい歯槽骨の吸収を呈する患者などの難症例が近年増加の一途をたどっている。この難症例に対する口腔内小手術、特に歯科インプラント治療に対しては、歯科衛生士としても高齢者の特徴を理解し、歯科衛生士としての技術だけではなく、術者から得られる情報を術者に伝えられるようになることが必要となっている。

そこで本講演では、まず始めに高齢者の口腔内の特徴を解説する。すなわち歯牙喪失後の顎骨の形態変化によって、顎骨周囲、顎骨内部の神経、血管、筋、唾液腺組織など軟組織の位置関係が、口腔内からどのような部位に位置するように変化するのかについて説明する。さらにはインプラント周囲炎の好発部位とその理由、高齢者にどのような口腔機能の変化が現れるのかについて解説を加える。

本講演を聞いていただいた次の日から、患者の口腔内を覗き、粘膜や顎骨内の中に潜む危険部位をチェックでき、インプラント周囲炎のメカニズム、好発部位、口腔機能の変化、などについてより深く考える事が出来るようになると確信している。

略 歴

- 1983年 芝高等学校卒業
- 1989年 東京歯科大学卒業
- 1993年 東京歯科大学大学院終了(歯学博士)
- 1994年 ドイツベルリン自由大学留学
- 2008年 台北医学大学臨床教授(口腔インプラント学)
- 2010年 東京歯科大学解剖学講座教授(現在)

memo